

麻しん 風しん 対策!



○麻しんについて

- ☆麻しんは、感染力が強く、免疫がない方が感染するとほぼ 100%発症する病気です。
- ☆初期症状（初めの3～4日）は、発熱（38℃前後）、咳、鼻水、目の充血、目やになどです。いったん熱が下がっても、再び発熱し、全身に発疹が出て、さらに4～5日高熱が続きます。
- ☆潜伏期間は10～12日（最大3週間程度）です。
- 患者さんと接したからといって、すぐに発症するわけではありません。
- ☆定期接種前の1歳未満児や、免疫機能が低下している状態の子が麻しんを発症した場合、重症ウイルス性肺炎等で死に至る場合があります。
- ☆麻しんは感染力が非常に強く、空気感染するため、手洗いやマスクの着用だけでは予防できません。麻しんの予防には、ワクチン接種が有効です。

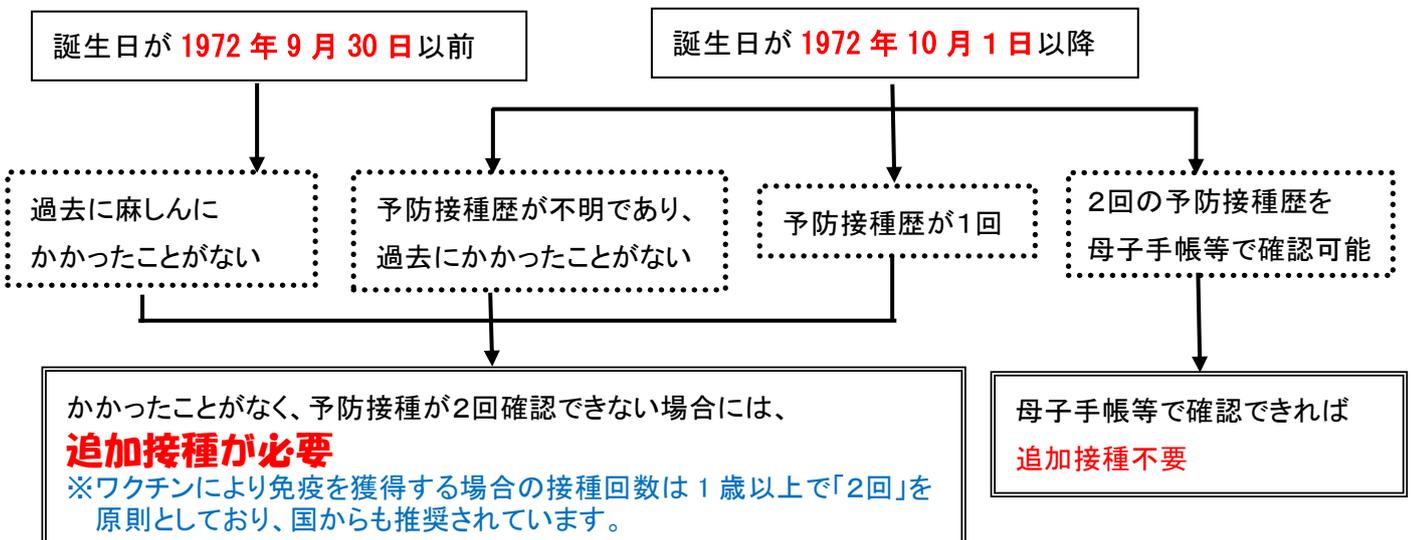
★生まれ年でわかるワクチン接種状況

生年月日	法に基づく接種回数	感染リスク
1972(昭和47)年9月30日以前	0回	自然感染によって免疫を十分に持っている人以外は、感染のリスクあり。
1972(昭和47)年10月1日～ 1990(平成2)年4月1日	1回	定期接種として1回しか接種していないため免疫が不十分で感染のリスクあり。
1990(平成2)年4月2日～ 2017(平成29)年4月1日	2回	定期接種として2回接種を受けていれば、感染のリスクは低い

定期接種の対象は、「**1歳児**」と「**小学校入学前1年間の幼児**」です。接種対象年齢になったら、速やかにワクチン接種をお願いします。

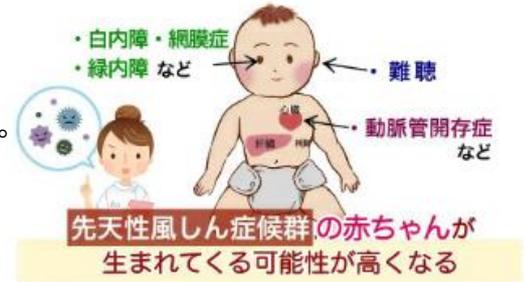


★追加接種の必要性



○風しんについて

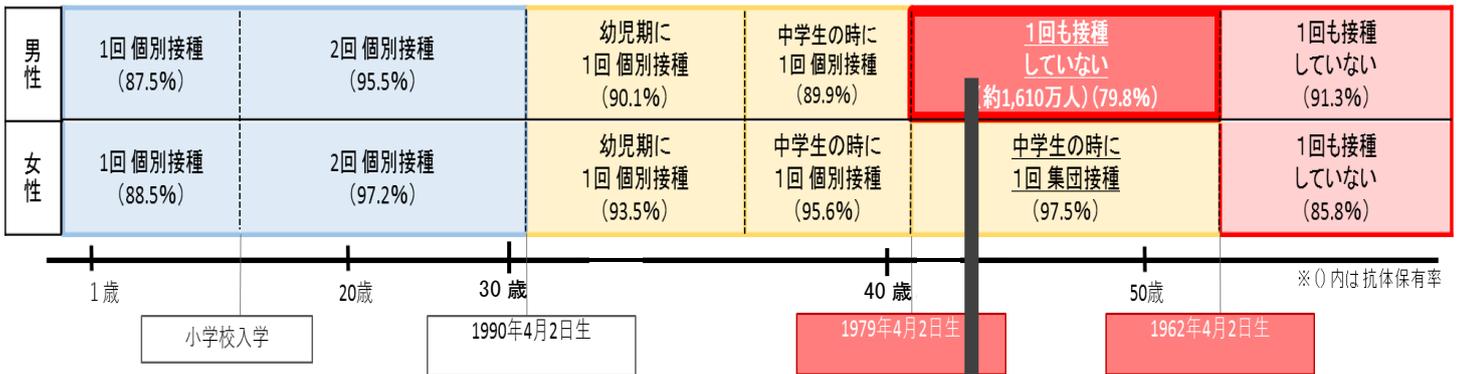
- ★風しんの主な症状は発疹、発熱、リンパ節の腫れなどです。飛沫感染でうつります。
- ★潜伏期間は2～3週間です。発しん出現の前後1週間は他人に感染させる可能性があります。
- ★妊娠初期の妊婦が感染すると、生まれてくる赤ちゃんの目・耳・心臓に障がいが起こることがあります。
妊娠中の方やその周囲にいる方は、特に注意が必要です。



★追加的対策（2019年度～2024年度）

予防接種法に基づく定期接種を受ける機会がなく、抗体保有率が他の世代に比べて低い、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性に対し、お住まいの市町村においてクーポン券を発行しています。この機会に抗体検査・予防接種を受けましょう。

- ① ワクチンの効率的な活用のため、まずは抗体検査を**原則無料**で実施
- ② 抗体検査の結果、十分な量の抗体がなかった方に対して、**原則無料**で定期接種を実施



過去に麻疹、風しんにかかったことがない場合、免疫が不十分で感染リスクが高い年代です。

※追加的対策は、2024年度までの実施になります。クーポン券を使用して速やかに抗体検査・予防接種を受けるようにしましょう。予防接種には、麻疹風しん混合ワクチンを使用します。

★各市町村での対策

妊娠希望者やその同居家族に対して、市町村の独自サービスとして、抗体価検査などの助成を行っています。詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

最後に

- ◆予防接種歴は、①母子手帳の記載で確認、②平成2年以降の接種に関しては、実施した自治体に本人が問い合わせれば、確認可能な場合があります。
- ◆麻疹又は風しんのどちらかにかかったのかは、記憶があいまいな場合が多いので、医師から確実に診断を受けたかを確認しましょう。
- ◆ワクチン接種後の年数経過と共に免疫が低下し発症することがあるため、麻疹と風しんに関しては2回接種が推奨されています。**ワクチン2回接種者の抗体保有率は、約99%です。**
かかったかどうか、ワクチン接種歴を確認の上、合計2回予防接種を受けましょう。